「湯沢・夏の観光の資源の活用を」。

関　忠夫（せき　ただお）

問 近年、山ガール、中高年の登山など多くの人が自然を求めています。夏季観光の強化を図る必要性があると思います。登山道、トレッキングコース等の草刈や案内看板の設置と整備、自然散策の安全性を高め、湯沢町、観光に活用していかなければならないと思います。

入山、下山の入口に、太陽光パネルのエネルギーを利用したカウント可能な設備を設置する事ができないか。

答 夏季観光の強化対策について、正確な観光客数の把握が大切な事だと思う。各施設の入場者数をその都度カウントするため、ダブルカウントやトリプルカウントの可能性もある。

登山客を把握するための太陽光パネルを利用した設備の設置についても、これからその設置の中身について検討してみたい。

問 観光協会が出しているパンフレットで、八木沢口から入る所、トレッキングコースで出入口と記載されている所は今は行けません。

タクシー業者もトレッキングコース入口と看板があるので、そこにお客様を下ろします。だがお客様は行けない。「湯沢町の観光の取扱どうなっているのか」と地元に人に訴えているそうです。町長からは「整備している」と答弁があったが、現実問題をどのように捉えているのか。

答 今実際、山に入っている関さんから話を伺った。町としても現状を確認した中で、指摘されるような事がないようにしたい。特に、パンフ間違っているような事は、もし事故が起きた場合問題になるので、その辺の確認を十分した上で対応したい。

問 清津峡トレッキングコース始め、主要な所には太陽光パネルを設置し、実数カウントができ、実数報告ができるように図っていく必要があると思う。この太陽光パネルのエネルギーを利用したカウント式設備（の導入）は、当然予算的なものも含め、検討しなければならないと思う。

答 私が勉強不足で、太陽光の測定器には出会ったことがないので、何言いようがない。いずれにせよ、そういう機器が色々な所にあるという指摘なので、実際確認して、付けなければならない所には考えていきたい。

「湯沢町統合文教施設開設に向けて」

問 バス停があっても一部待合所がなく、雨の日、吹雪の日も外で待っています。

小学生、保育園児も統合文教施設まで通学、通園しなければなりません。遠距離の小学生、保育園児を安全、安心に通学、通園させるためにどのような対策を考えているか。送迎に掛かる時間、そして送迎車両と燃料代金、遠距離保護者は大変な事と思います。救済対策は考えていないのか。

小学生、保育園児も統合文教施設まで通学、通園しなければなりません。遠距離の小学生、保育園児を安全、安心に通学、通園させるためにどのような対策を考えているか。

送迎に掛かる時間、そして送迎車両と燃料代金、遠距離保護者は大変な事と思います。救済対策は考えていないのか。

答 【教育長】小学生は、三国と三俣地区と神立地区の一部は専用スクールバスの運行を、土樽地区、湯沢地区の遠隔地は路線バスを利用する予定である。

三国、三俣方面の専用バスは、バスルートの運行を検討している。待合室などは新たに用意しない予定。安全且つ極力短い乗車時間で通学できるように、児童生徒の家の位置関係をみた中で乗車場所とバスルートを決めたい。

子ども園では子供の住まいの地区の距離と年齢に応じて通園バスを利用して頂く事になるが、バスの運行形態は地域によって異なってくる。基本的には、専用バスの運転は3歳以上の子供とし、3歳の誕生日を迎えれば乗車可能にしたいと考えている。

3歳未満の子供については、遠距離の送迎をお願いする事になるが、現時点ではそれに対する記載等は考えていない。

問 乗車場所はその時の流れによって決めるという回答だが、実際問題、道路状況、天候状況で予定時間にバスが来なかったりして、子供たちが吹雪の中、待っているのが現実である。

三俣の例を挙げると、17号線を走行しているが、集落の中を回って乗せて行くような事を運行会社の人たちと協議してはどうか、今から協議検討していかないと、実際運行した時には大変な事になる。

未満児の対応だが、保護者に送迎をお願いするとの回答だが、例えば一番遠い距離、浅貝から認定こども園まで片道23Kmある。一日92Km走らなければならない。1日当たり18Km走行可能な車で想定、現在のガソリン価格140円／Lで計算すると1ヶ月1万4千円、年間16万8千円の費用が掛かる。保護者に負担をしていただかなければならない事になる。

「子供を育てて行きたくとも送迎に金がかかり、とてもじゃないけど、住める環境ではない」という話になる恐れもある。救済対策を考えて頂きたい。

答 三国、三俣、神立方面の小中学生送迎の件は、地域説明会に伺ったときにも「安全安心第一」と指摘されている。今まで中学生は定期バスなどで通学していたのだが、今度小学生も一緒になるので、専用バスを使って専門業者に委託し、送迎する予定である。

固定した待合所を作るより、定期バスより比較的融通の利いた運行ルートで待たずに送迎できるのではないかと思っている。

未満児の認定子ども園への保護者への救済であるが、保護者の皆さんから強い要望等があれば、県内市町村でそうした補助を行なっている制度を参考にしながら、検討していきたい。

問 現状の保護者だけの問題ではないという認識を持ってもらいたい。

未満児の対応では、保護者から強い要望があれば、他の例を参考にしてという事だが、これは違うのではないか。統合する文教施設認定子ども園の受入態勢を、湯沢町はそれを一歩リードして遠距離から通う未満児対策はこのようにしているのだという事例を作るくらいの姿勢を示して頂きたい。

参照したり、比較するのではなく、湯沢町としての（独自の）対応をきっちり考えて頂きたい。

答 【清水教育長】今伺った意見を十分の参考にして、検討していきたい。